

# 第 19 回グリーンプランおおた推進会議 議事概要

<b>日 時</b>	平成 29 年 7 月 5 日（水）18：00～20：00
<b>会 場</b>	大田区立消費者生活センター 大集会室
<b>出席者</b>	
【推進会議委員】	島田委員長、池邊副委員長、樋口委員、平澤委員、上森委員、内田委員、加藤委員、龍口委員、菅原委員、黒澤委員、齋藤委員、畑元委員（欠席：原田委員、牧野委員）
【庁内委員】	施設整備課長、産業振興課長、観光課長、都市計画課長、建築審査課長 都市基盤管理課長、道路公園課長、環境計画課長（環境対策課長兼務）
【傍聴者】	4 名（うち庁内関係職員 2 名）
【事務局】	4 名

## 1 開会

## 2 議事

### （1）委員長及び副委員長の選出

#### 事務局

- ・「グリーンプランおおた推進会議設置要綱」第 5 条第 2 項により、委員長及び副委員長は委員の互選になっている。

#### 委員（まちづくり推進部長）

- ・緑の基本計画「グリーンプランおおた」策定から本日までの推進会議でのご功績を踏まえ、引き続き島田委員に委員長、池邊委員に副委員長として推薦させていただきたい。

#### 事務局

- ・ただいま黒澤委員より委員長、副委員長の推薦があったがいかがか。  
(異議なし、拍手で承認)

### （2）第 18 回推進会議の振り返り

事務局：（事前送付資料 1－1、1－2 を基に説明）

#### 委員長

- ・特にご意見等無ければ事務局説明のとおり、議事概要を後日区ホームページに掲載する。

### （3）グリーンプランおおた平成 28 年度実施事業の進捗状況報告

事務局：（事前送付資料 2－1、2－2、2－3 を基に説明）

#### 委員長

- ・新区民委員の 3 名には、6 月 30 日に事務局から平成 28 年度実施事業の説明があったとのことだが何かご感想等一言ずつお話しいただきたい。

## 委員

- ・ グリーンプランおおたは非常にハード整備の事業が多い印象を受けた。
- ・ 人々の意識を変える、みどりを大事に思ってくれる人を増やすことが非常に重要。
- ・ 意識を変えるには年月がかかり、ハード整備と異なり結果が見えにくく後回しにされがちである。
- ・ もう少し教育など主に子どもたちに働きかけていく活動が増えるといいのではないか。
- ・ 例えば、「未来を支える子どもたちへのみどりの伝承」という施策で、教育委員会とともに学校単位で事業を行うほか、近くの学校でもっと子どもに自分たちの周りのみどりに興味・関心を持ってもらうことでみどりに対する意識を広めていけるのではないか。
- ・ 現在中学1年生の子は2030年までには大人になるので、今から始めても遅くはない。

## →環境計画課長

- ・ 教育委員会との連携では、配布資料の「雑木林のみち」という区民共同調査の結果をまとめ、みどりに関する啓発パンフレットを作成した。
- ・ その際に大森第六中学校の生徒95名と、その他にも多くの方にご参加いただき、共同で調査を実施した。
- ・ 今後もこのような活動が広がり学校間でも情報を共有することで、みどりを支える活動が広がることを期待している。

## 委員

- ・ 事業評価がほとんどB評価だが、B評価をつける基準はあるのか、A評価がつくべきものもあったのではないかと疑問に思った。
- ・ プラン策定から現在に至るまでに、着手していないから評価できない事業もあるはずではないかと思ったが、説明を受けて事業等の見直しを行っていることが分かった。

## 委員長

- ・ 黒澤委員、B評価の判断基準についてはいかがか。

## →委員（まちづくり推進部長）

- ・ それぞれの部の係長や担当職員ができるだけ丁寧に、また、書けるものは数字で書いているが、少し保守的な意識でB評価を確保するという面もあるのかもしれない。A評価がない、というご意見は新鮮だった。
- ・ もう少しきめ細かくこの一年間を振り返り、数字の面だけでなく、質の面で今までと何か変わった何かに取組めたら、それはAと評価してもいいのではないかという発想も大事なのではないかと受け止めさせていただいた。

## 委員

- ・ 事業課が各自評価して事務局がまとめて、この推進会議で評価することだが、このわずかな時間で評価ができるのか。報告を聴くだけで評価は難しいのではないか。
- ・ 各部署が出してきた評価を統一した観点で相互に評価し直すような仕組みが必要なのではないか。

- ・ルーティンワーク的な業務と将来に向けてのビジョンやプランを出している事業とでは、同一の基準で評価できるのか疑問を感じた。

#### 委員長

- ・初めてご覧になられての視点や切り口で持たれたご感想、ご意見で大変新鮮に感じる。
- ・事務局も改善できるところは検討し、より良いプランになるようにしていただきたい。

#### 委員

- ・行政は年度予算の中でどのように風に事業を進めていくか立案し、報告のような評価をしているのだと思うが、我々からするとどこまでが100%、120%、50%という評価をしにくい。
- ・年度計画の中でそれなりに計画通り事業が進捗している、成果を上げているという意味でのB評価であると理解している。
- ・一般的な庭の剪定の際にもかなりの負担がかかるが、街路樹など一定期間が経って枝葉が伸びきり、それにより生じる障害を防ぐために区が管理しているのを常々みていると、公園でも行政が管理しているのだと思っている。
- ・洗足池公園や小池公園、その他の小さな公園を見てもそれなりにきれいになっているので、これらB評価は妥当なのではないか。

#### 委員長

- ・上森委員と加藤委員の評価というお話について、他の委員や黒澤委員から先ほどのようなお話があったが、御納得いただけたか。
- ・自治体の表現の方法にもよるが、大田区のB評価をA評価にするところもある。
- ・そういう意味では大田区は非常に真摯に、控えめに書いている印象を受ける。

#### 委員

- ・控えめに評価しているのだと6月30日の説明を聴いて思った。
- ・予算と事業の費用対効果という面で、いくら予算に対して何がなされたのかということが今回の説明では分からない。
- ・費用について補足する資料があるのか質問したところ、この資料には載っていないが、別に決算報告書があると説明を受けた。

#### 委員

- ・みどりに関する事業の予算は足りているのか。場合によっては、推進会議として要求することも必要かと思うがいかがか。

#### →都市基盤管理課長

- ・国庫補助や都市計画交付金を活用するなど、なるべく区の財政に負担がかからないような形で、国が進める施策に合わせた形でみどりを増やしていこうと取り組んでいる。

- ・例えば土地なら何十億円という額になることもあるが、ほとんどが国や東京都の補助金を使いながら整備を進めている。

#### 委員長

- ・言い忘れたことなどがあれば、7月19日（水）までにご連絡いただきたいとのこと。

#### 事務局

- ・平成28年度事業の進捗状況報告については、次回第20回グリーンプランおおた推進会議で最終的な承認をいただく予定。

### （4）平成29年度の主な事業

#### ① まちづくり推進部

**都市計画課長**：「第2回大田区景観まちづくり賞」について説明【当日資料1・2】

**まちづくり計画調整担当課長**：「特別緑地保全地区の指定基準の検討」「湧水調査結果の活用」「みどりの基金創設の検討」について説明【当日資料1】

#### ② 都市基盤整備部

**都市基盤管理課長**：「ブルートライアングルプロジェクト」「新スポーツ健康ゾーンの整備」「魅力ある公園のリニューアル」「公園・緑地整備計画の策定・推進」について説明【当日資料1・3-1~3-3】

#### ③ 環境清掃部

**環境計画課長**：「18色の緑づくり支援」「緑の講演会」「自然観察路」「おおたの名木選」について説明【当日資料1・4-1~4-4】

#### 委員

- ・ブルートライアングルプロジェクトについて、大田区全域にアオスジアゲハが舞う状態をイメージしているのか、限られた施設の中で蝶が舞っているといったスペースを設けるのか。将来的に誰がどこでどのような形で見られるのかが分からない。
- ・事業の目標を教えてください。

#### →都市基盤管理課長

- ・自然のアオスジアゲハを自然の状態で見たいということ。
- ・日常でもちゃんと見ているとアオスジアゲハは多く見られるが、実は見ようとしなないとなかなか見られない。まずは見ましよう、というところから始める。
- ・アオスジアゲハの好きな蜜を持つ花をポイントに集め、ここに来ると見られる機会が多くなるということを考えている。
- ・28年度の調査では樹木の剪定の際などに、なるべく人の目に触れるようにアオスジアゲハが来られる状況を作り出すにはどうしたらよいか検討した。
- ・街路樹では難しいこともあるが、アオスジアゲハは柔らかい葉に卵を産むため、人に見えるところにある柔らかい葉を残すなど、公園の木などは剪定の時期などを考慮して、好きな蜜が出るよ

うな花をある一定の場所に集めてバタフライガーデンをすることで、見られる機会が増えるのではないかと考えている。

- ・つまり、数を増やすのではなく、あくまで見える化を図っていく。

#### 委員

- ・環境整備がされなければ生き物は寄ってこないなので、蝶が来られるような環境づくりを進めていかなければならない。
- ・昔は畑も沼地もあったので昆虫が多く見られたが、今はまちが整備されて昆虫が寄ってくる場所を探すのも大変難しい。
- ・昆虫が寄ってくる整備をすることで、ここへ行けばそういうものが見られるという方向を位置づけていってはどうか。

#### 委員

- ・大田区の自然環境を良くして蝶が舞うというようなことを目指すということであれば、シンボルとしてブルートライアングルプロジェクトがあり、底辺には大田区がどこでも蝶が舞うような環境づくりをするというようなことが伝わるサブタイトルを入れた方が良いのではないか。

#### →環境計画課長

- ・環境保全、生物多様性という点では環境清掃部で啓発ということで、環境基本計画の概要版をはじめとして、未来に育っていく子どもたちに対して大田区の自然環境の大切さを知ってもらうため、個別に新たなアイテムを研究し啓発に努めていきたい。

#### 委員

- ・木は伸びるので定期的に切らなくてはならないが、毎年切ると根っこが伸びず、強風で倒れやすくなる。
- ・木を切る際には役所でも地域の人たちに分かるように説明してほしい。
- ・公園整備では、今は佐伯山緑地が整備されているが近隣の人たちはどんな公園ができるのか心配している。
- ・どんな公園なのか役所がしっかり説明しないと何を作っているのか分からない。

#### 委員長

- ・菅原委員ご発言の公園の説明会等については既に行っていると思うが、管理の方法もひっくるめて、住民の方にうまく説明されていかれたらよろしいかと。

#### →都市基盤管理課長

- ・皆がみんな、緑が近くにあれば良いということではなく、管理や整備の方法など様々なご意見があるため、それらを集約してまとめていく作業が必要になる。
- ・基本的には計画段階から地域に入って説明をさせていただくということが多く、佐伯山緑地も説明に入っていると思う。

- ・大きな公園ではワークショップという手法を使うほか、近隣の方々に説明会を行い整備のコンセプト等を説明させていただいている。

#### 委員

- ・緑があればいいわけではないということだが、どういった緑が必要なのかを考える必要がある。
- ・造園のアルバイトをしており、葉が落ちるから木を切って欲しいと言われることがあるが、そこまで切らないには切らない理由があり、そういうことを分かってくれる区民を育てる、区民がいるまちであってほしいと思う。
- ・リニューアルした公園が必ずしも児童公園でなくてもいいのではないか。
- ・遊具があって周りに植栽があるという形ではなく、みんなの憩いの庭のような公園も、この「魅力ある公園のリニューアル」ということになるのではないか。

#### 副委員長

- ・公園に関して造園職の人間は、子どものために砂場など三種の神器というものを教わっている。
- ・そういう時期から変わり、一時代前は高齢化だから高齢者に合わせた健康遊具を設置しようとか、様々な話があったが、マンション居住者が多くなり、最近ではコミュニティの絆を強くする、新住民と旧住民が知り合う場になるなど、そういう方々のコミュニティガーデンみたいな場であってもいい。
- ・使わない公園は不要ではないか、駐車場や保育園にしたらどうか等の話がある中で、どのような公園であれば本当に地域の人たちに親しまれる公園になるのか、ということをお皆さんと共有していくことが大切。
- ・ワークショップという方法もいいのだが、基本的に挙がる声は使っている人の声である。
- ・公園が変わることで今まで公園に来なかった人も、きれいな公園になった、私も行けるような空間になったなど、気づきの変化が必要。

#### 委員

- ・耐震工事で下丸子図書館がリニューアルする際に隣接する公園も一体的にリニューアルするかと思ったが、図書館は図書館だけで耐震工事があった。
- ・隣の公園は良心的に使う人たちだけではなく、いわゆる夜間のたむろする場所になってしまうということもあると思うのだが、フェンスで囲われて、悪いことを防ぐ感じの公園になってしまった。
- ・図書館の本を外で読むことは管理上難しいとは思いますが、図書館と公園に何か関係性が出来るなど、一緒にリニューアルができればよかった。
- ・何か事情が分かれば教えていただきたい。

#### →都市基盤管理課長

- ・個々の公園と管理施設を一体で整備することはよくあること。
- ・例えば、保育園の建替えは公園を利用しながら進めており、公園だけで動いていない。

- ・公園には基本的には法律がかかっているため、廃止となると議会で3分の2の議決が必要であるなど厳しい条件があり、議員の方々にメリット等説明しながら整備の方法等を考え、整備を進めている。

#### 委員長

- ・大田区は保育園や児童館と非常にうまく公園をつないで整備してきている。
- ・ご指摘のあった図書館のような施設と公園がリンクするということは大事なこと。

#### 委員（都市基盤整備部長）

- ・ブルートライアングルや、公園づくりと人づくりも大事ではないか、コミュニティの絆を強くする場としての公園など、参考にさせていただきたい。
- ・各事業それ自体は目的ではなく、あくまで魅力あるまちづくりの手段である。
- ・ソフトの無いハードというのは区の施策の中にありえない。
- ・ハード整備をする際にも、まちづくりは人づくりという面もあるので、みどりを担っていただく人材の育成というものも併せて行っていきたい。

### （5）みどり基金創設の検討

まちづくり計画調整担当課長：（事前送付資料3-1、3-2を基に説明）

#### 委員長

- ・今日明日すぐに決める内容ではなく、時間をもって検討していきたい。
- ・みどり基金の他区の状況、区民への意向調査の話について何かご質問、ご意見あるか。

#### 委員

- ・大田区では過去にドリーム債を発行しているが、目的があることが大事。
- ・早稲田大学では過去に大隈講堂の改修の際に10万円以上寄付した人のネームプレートをつけるということをやっていた。
- ・例えば、みどり債という名目で大田区内の緑を増やそうという趣旨に賛同し寄附していただいた方は区報に名前を載せることもアイデアのひとつではないか。

#### 委員

- ・何のために基金が必要なのか、こういう理由で基金があると区民や行政にとって良くなる、ということが分からない。
- ・事前送付資料3-1の「大田区の該当事業」のとおり、それぞれの事業課で事業を進めているとのことだが、それに加えて他の事業もやりたいのであれば、どれくらいの規模で、どのようなことをやろうとしているのか、現状のやり方ではどのような問題があつて基金が必要なのか、というようなことを明確にすべき。

→まちづくり計画調整担当課長

- ・みどり基金の目的は、グリーンプランおたにも掲載されているとおり、安定したみどりのまちづくりに係る財源の確保を目指すためということになっている。
- ・今現在、みどりに関する事業が全然進んでいないわけではなく、各事業課が計画と予算に基づき進めている。
- ・平澤委員からもあったように、何か目的をもって基金を募ってやっていこうということや、寄附にご協力いただいた方の名前をネームプレートなどにより表示したらいいのではないかなど、基金に限らず、このような方法で進めていくとみどりのまちづくりに寄与していくのではないかなども含め検討をしていきたい。

→委員（まちづくり推進部長）

- ・基金は財源確保の目的のほか、区民の方々や事業者、まちづくりのプレイヤーの皆さんがみどりをつくって育て守っていく、大田区全体の地域の営み、取組みに参加していただく一手段として機能していくことも大事ではないかと考えている。
- ・一人ひとりがみどりを支えていく主体となり、みどりに関する取組への参加の一手段として、基金の可能性があるのでないか。
- ・安定的な財源の確保という面では、他区の状況を見るとほとんどの区が一般財源を投入していることから、財源確保の手段として基金が本当に妥当なのか疑問がある。
- ・だから基金は必要ないと簡単に結論を出すのではなく、重要な懸案として議論していくべきものと考えており、皆様からのご議論をいただきたい。

委員

- ・ドリーム債はいくら集めていくらか何に使ったのか、償還したのかということは分かるか。

→事務局

- ・H17年～H23で全6回発行し、期間が全て5年間の公募債である。
- ・最新のものではH23に大田区総合体育館の整備のために6億円発行し、H28年9月21日に償還済み。

委員

- ・皆で作ってあげていこうという気持ちのもと、行政と区民が協働して前進していくことが必要。
- ・一所帯1,000円拠出しましょうということがあってもいいのではないか。

委員

- ・基金というのは区民の意識を高め、自分が住んでいる地域をより良い環境にするために一緒にやっ  
ていきましょう、という趣旨に賛同してくれる方が基金に寄附をしてくれる。
- ・今行っている事業に加え、こういうことをやっていくために皆さんの力を貸してくださいと示さな  
い限り、なかなかお金を出そうという気持ちにならない。

## 副委員長

- ・例えば、田園調布など美しい緑とか保護樹木樹林に指定されている場所が売りに出されたときなど、皆さんがそこは買い取ってでも公園や緑地として保全したいというときに基金を使うという選択肢もある。
- ・公園でも生物多様性の話が出たが、なぜ公園の樹木が常緑樹ばかりなのかということ、花が咲き、虫が来るような植物はメンテナンスに手間がかかるということであるべく維持管理の手間がかからないように設計しろと言われた時期も昔はあったためである。
- ・今後、生物多様性を考えていった場合には、維持管理費も今まで以上にかかる。
- ・呑川の水質改善や湧水の保全など、今までお金をかけてこなかったが必要なものもある。
- ・街路樹は更新が必要であり、ソメイヨシノに関してもきれいな桜を維持していこうと思えば更新が必要である。
- ・公共用地が売りに出されたときにも利用できるのではないか。
- ・保護樹木も一本当たりの維持管理の費用はどの区でも費用が限られている。
- ・落ち葉が有料ゴミになってしまうということもあるので、そのようなことにも対応可能である。
- ・公園をコミュニティガーデンやエディブルガーデンにすると、それだけ手間がかかる。
- ・公園というのは整備費には補助金が出るが、メンテナンスには補助が出ない。
- ・そういうところに基金を充てることによって、よりみどりを創出できる。

## 委員

- ・観光地の寺などでは、今後もきれいな状態を観光客に見てもらうための協力費として拝観料を払う。
- ・大田区全体のことは区役所がやるべきだという考え方もあると思うが、皆さんで良くしていこうという発想がないとこの問題は難しい。

## 3 閉会

### 事務局

- ・今回は、日中にバスで区内の最近話題となっている公園や名木選で選ばれた場所、景観賞を受賞した場所などを回る予定。
- ・日程が決まり次第連絡する。